

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

第2期芦屋町まち・ひと・しごと創生推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

福岡県遠賀郡芦屋町

3 地域再生計画の区域

福岡県遠賀郡芦屋町の全域

4 地域再生計画の目標

本町の人口は、昭和50年（1975年）の国勢調査における19,762人をピークに減少しており、住民基本台帳によると令和6年12月末には12,725人となっています。国立社会保障・人口問題研究所によると、2060年には総人口が6,771人となる見込みである。

年齢3区分別の人口動態をみると、年少人口（0～14歳）は昭和50年（1975年）に5,157人をピークに減少し、令和2年（2020年）には1,645人まで減少している一方、老年人口（65歳以上）は昭和50年（1975年）の1,258人から令和2年（2020年）には4,363人と増加の一途をたどっており、少子高齢化がさらに進むことが想定されている。また、生産年齢人口（15～64歳）も昭和60年（1985年）の12,709人をピークに減少傾向にあり、令和2年（2020年）には7,531人となっている。

自然動態をみると、出生数は平成16年（2004年）以降、増減を繰り返し、令和4年（2022年）には76人となっている。その一方で、死亡数は平成21年（2009年）以降、増減を繰り返し、令和4年（2022年）には199人と最も多くなり、出生者数から死亡者数を差し引いた自然増減は▲123となっている。

社会動態をみると、平成19年（2007年）には転入者（1,282人）が転出者（1,613人）となりピークの社会減（331人）であったが、以降、増減を繰り返し、令和4年（2022年）には転入者（1,014人）が転出者（1,052人）となり社会減（38人）

まで改善した。

このまま人口減少が続くと、地域経済社会の衰退、税収の減少に伴う公共サービスの質低下、労働力不足などの影響が懸念される。

これらの課題を解決するため、令和 22 年（2040 年）をめどに、社会移動「ゼロ」にすること、合計特殊出生率を 2.07 まで上昇させることの 2 つの目標を芦屋町人口ビジョンで設定している。

また、第 3 期芦屋町まち・ひと・しごと創生総合戦略では、地方創生の推進を行うため、芦屋の魅力を活かした「ひと」の流れをつくり、芦屋ならではの「しごと」をつくり、住んでみたい・住み続けたい「まち」づくりを行うこととしている。

なお、これらの課題に対応するため、次の事項を本計画期間における基本目標として掲げ、取り組む。

- ・基本目標Ⅰ 芦屋の魅力を生かし、新しいひとの流れをつくる
- ・基本目標Ⅱ 芦屋ならではのしごとづくりを進める
- ・基本目標Ⅲ 若い世代が安心して結婚・出産・子育てができる環境をつくる
- ・基本目標Ⅳ ずっと住み続けたい、時代にあった地域をつくる

【数値目標】

5-2の ①に掲げ る事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2029年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の政策目標
ア	プロモーションサイトの新 着件数（累計）	13件	95件	政策目標Ⅰ
	公式フェイスブック・公式イ ンスタグラムの投稿件数（累 計）	269件	1,350件	
	公式フェイスブック・公式イ ンスタグラムのフォロワー 数（累計）	1,503人	2,600人	

観光スポット紹介動画投稿 件数（累計）	1 件	5 件
あしや砂像展インスタグラ ム投稿件数（累計）	26回	130件
芦屋町ふるさと観光大使	1 人	2 人
芦屋町ふるさと観光大使に よるプロモーション件数（累 計）	24件	120件
観光入込客数	587,604人	637,000人
町内周遊施策件数（累計）	2 件	10件
芦屋歴史の里年間来場者数	3,010人	5,000人
芦屋歴史の里特別展の開催 数（累計）	2 回	10回
あしや体験隊プログラム実 施件数（累計）	47件	200件
レンタサイクル利用者数（累 計）	3,823人	20,000人
芦屋釜の里年間来場者数	11,650人	20,000人
芦屋釜の里企画展開催数（累 計）	2 回	10回
芦屋港における年間訪問者 数	0 人	150,000人
ボートパーク利用率	0 %	86%
モーヴィ芦屋を活用した情 報発信件数（累計）	5 件	25件
ボートレース芦屋連携イベ ント実施回数（累計）	0 回	5 回
移住セミナーの開催・出展回 数（累計）	1 回	5 回

	定住促進奨励金を活用した 移住・定住世帯（累計）	30世帯	100世帯	
	移住支援金を活用した移住 世帯（累計）	1 世帯	3 世帯	
	空家バンクの売買・賃貸契約 件数（累計）	1 件	5 件	
	中古住宅解体後の新築住宅 建築補助金交付件数（累計）	3 件	10件	
イ	認定農業者数	13人	15人	政策目標Ⅱ
	漁業者一人当たりの水産物 取扱高	3,616千円	3,650千円	
	空き店舗等活用事業補助金 の新規交付件数（累計）	7 件	15件	
	空き店舗バンク登録数（累計 ）	3 件	10件	
	プレミアム付き商品券発行 総額	202,500千円	84,000千円	
	プレミアム付き商品券発行 総額に対する電子商品券の 割合	20%	50%	
	制度融資新規利用件数（累計 ）	15件	50件	
	企業誘致条例・創業促進支援 事業補助金を活用した新規 雇用者（累計）	18人	25人	
	ブランド認定新規認定件数（ 累計）	2 件	25件	
	イベント出店件数（累計）	9 件	25件	
	学校給食への地元水産物の	0 回	5 回	

	提供回数（累計）			
ウ	出会いの場の提供回数（累計）	1 回	5 回	政策目標Ⅲ
	出会いの場の参加者数（累計）	15人	80人	
	妊婦検診受診率	94.3%	100%	
	妊娠 8 ヶ月アンケート回収率	94.3%	100%	
	新婚・子育て世帯民間賃貸住宅家賃補助金の新規交付件数（累計）	8 件	40件	
	小中一貫教育連携授業・協議会の実施回数（累計）	1 回	5 回	
	幼・保・小・中への巡回相談実施回数（累計）	43回	210回	
	オンライン英会話授業の実施回数（累計）	3 回	15回	
	英語検定試験の受験率（小学校）	11.2%	30%	
	英語検定試験の受験率（中学校）	29.3%	40%	
	英語活動体験・海外ホームステイ事業の実施回数（累計）	2 回	10回	
	教師用デジタル教科書の導入率	100%	100%	
	タブレットの持ち帰り学習を実施する学校の割合	25%	100%	
	子育て支援センター年間利用者数	7,499人	7,500人	

	たんぽぽでのイベント実施回数（累計）	61回	310回	
	通学費補助金交付率	84%	85%	
	通学費補助金の電子申請率	0%	90%	
	公園遊具の点検率	100%	100%	
	点検の結果整備が必要となった公園の整備率	57.9%	100%	
エ	芦屋タウンバス年間利用者数	100,730人	120,000人	政策目標Ⅳ
	平日1日のバスの運行便数	151便	151便	
	自治区担当職員制度における参加行事数（累計）	12回	60回	
	ボランティア活動センター利用者数	2,721人	2,890人	
	学校教育分野におけるシビックプライドの醸成の取組（累計）	4事業	20事業	
	生涯学習分野におけるシビックプライドの醸成の取組（累計）	4事業	20事業	
	芦屋釜の里におけるシビックプライドの醸成の取組（累計）	2事業	10事業	
	地域交流サロン事業実施箇所数	24箇所	30箇所	
	地域交流サロン事業参加者数	5,408人	5,700人	
	認知症サポーター養成講座受講者数（累計）	32人	160人	

防犯パトロールの実施回数（累計）	12回	60回	
防災訓練の実施回数（累計）	2回	10回	
北九州都市圏域連携中枢都市圏ビジョンにおける連携事業数	67事業	67事業	
電子図書館のログイン利用率	3.7%	13%	
電子図書を活用した読書活動に取り組んだ学校数	0校	4校	

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

第2期芦屋町まち・ひと・しごと創生推進事業

ア 芦屋の魅力を生かし、新しいひとの流れをつくる事業

イ 芦屋ならではのしごとづくりを進める事業

ウ 若い世代が安心して結婚・出産・子育てができる環境をつくる事業

エ ずっと住みたい、時代にあった地域をつくる事業

② 事業の内容

ア 芦屋の魅力を生かし、新しいひとの流れをつくる事業

芦屋の魅力ある豊富な資源を発見し、磨きあげ、それぞれをつなぐことで、付加価値を高めるとともに、回遊性と滞在時間を高める事業。また、町民自身が芦屋の魅力を認識し、その魅力を発信する仕組みをつくることにより、新しいひとの流れをつくる事業。

【具体的な事業】

- ・ 海岸線や海を生かした魅力向上プロジェクト
- ・ 移住・定住促進プロジェクト 等

イ 芦屋ならではのしごとづくりを進める事業

農業、漁業、商工業において、新規の参入とあわせて、既存事業者の支援を行うことで、まちのにぎわいづくりを推進する。また、農作物や水産物などの地域産品の名産化を推進することで、芦屋産品の町内外での消費拡大を図る事業。

【具体的な事業】

- ・ 空き店舗・空家を生かした起業・誘致
- ・ 地域産品の名産化の推進 等

ウ 若者の出会いの場を創出するとともに、安心して結婚・出産・子育てのできる環境と子育て世帯への支援を充実する事業。

【具体的な事業】

- ・ 妊娠期から出産までの支援充実
- ・ 新婚・子育て世帯民間賃貸住宅家賃補助制度の推進 等

エ ずっと住み続けたい、時代にあった地域をつくる事業

公共交通ネットワークを充実させるとともに、こどもから高齢者までが安心して生活できる、コミュニティあふれる地域づくりを行う事業。また、近隣の市町村との連携により生活関連サービスの充実を図る事業。

【具体的な事業】

- ・ 芦屋タウンバス事業の充実
- ・ 北九州市との連携中枢都市圏構想の推進 等

※なお、詳細は第3期芦屋町まち・ひと・しごと創生総合戦略のとおり。

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

2,000,000 千円（2025年度～2029年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

毎年度8月頃に外部有識者による効果検証を行い、翌年度以降の取り組み

方針を決定する。検証後速やかに芦屋町公式ホームページ上で公表する。

⑥ 事業実施期間

2025 年 4 月 1 日から 2030 年 3 月 31 日まで

6 計画期間

2025 年 4 月 1 日から 2030 年 3 月 31 日まで